

WEB マスタメンテ 2.0

I2C WEB Master Mainte 2.0

システム設定マニュアル

2005 年 12 月 20 日

株式会社 I2C (アイ・トゥー・シー)

プロダクトチーム

<http://www.i2c.jp/product/>

目次

はじめに.....	3
1. 共通事項.....	4
2. システム設定.....	6
3. 接続先情報.....	7
4. カテゴリ情報.....	11
5. カテゴリ-テーブル一括設定.....	12
6. テーブル情報.....	13
7. テーブル情報 一括登録.....	17
8. テーブル制限.....	18
9. 列情報.....	19
10. 列情報 一括更新.....	31
11. アシスト情報.....	32
12. ビュー情報.....	34
13. レイアウト情報.....	36
14. リレーション情報.....	38
15. 接続先情報一括ロック.....	40
16. テーブル情報の一括ロック.....	41
17. グループ情報.....	42
18. グループ-ユーザー一括設定.....	43
19. ユーザー情報.....	44
20. グループ(ユーザー)接続先権限.....	47
21. グループ(ユーザー)テーブル権限.....	48
22. グループ(ユーザー)列権限.....	50
23. 共通設定.....	52
24. 祝日設定.....	54
25. ログイン認証.....	55
26. ライセンスキーの登録.....	56

はじめに

対象読者

このマニュアルは、本ソフトのシステム設定を行う管理者を対象としています。データベースやテーブル、グループやユーザーなどのシステム設定に関する情報を記載しています。

前提条件

システム設定を行うには、本ソフトが正しくインストールされている必要があります。また、データベースに対応する JDBC ドライバが正しく配置されていることが前提になる機能があります。

インストール、JDBC ドライバの配置については『インストールマニュアル』を参照してください。

標記規則

このマニュアルは、次の標記規則を使用しています。

表記	意味
【...】	墨カッコは、画面の名称(タイトル)を示します。
「...」	鍵カッコは、画面の項目名を示します。
『...』	二重カッコは、マニュアル名またはその見出しを示します。
	米印は、その項目が入力(選択)必須であることを示します。

1. 共通事項

ここではシステム設定に関する共通事項を説明します。

基本操作

システム設定に関する基本操作は次の手順で行うことができます。

1. システム管理ユーザーとしてログインする。
2. 画面右上の「システム設定」をクリックして、[システム設定]画面に移動する。
3. [システム設定]画面のメニューから設定する情報をクリックする。
追加の場合：「操作…」リストから「新規追加」を選択して追加画面に移動する。
更新の場合：一覧で表示されている更新アイコンをクリックして更新画面に移動する。
削除の場合：一覧で表示されている削除アイコンをクリックする。

一般ユーザー

一般ユーザーとは、システムにログインして許可された権限の範囲内でデータベースへのアクセス行えるユーザーを示します。システム設定を行うことはできません。

システム管理ユーザー

システム管理ユーザーとは、一般ユーザーに加えてシステム設定を行うことができるシステム管理権限を持つユーザーを示します。

ID

ID は、同じ情報の一覧の並び順を決定するために使用される値です。

ID はいつでも変更できます。

並び替えは自然言語順で行われるため、1, 01, 2 の3つの ID の情報が登録されている場合、01, 1, 2 の順に表示されるため、桁数を統一して左0埋めなどを行って設定することをお勧めします。

接続先情報の ID の例

【メインメニュー】画面の「接続先...」リストボックス内の表示順序が ID で決定されます。

カテゴリ情報の ID の例

【メインメニュー】画面の「カテゴリ...」リストボックス内の表示順序が ID で決定されます。

テーブル情報の ID の例

【メインメニュー】画面のテーブルの表示順序が ID で決定されます。

ID の自動採番

ID の入力項目の右の「自動採番」のチェックボックスは、システム日付のタイムスタンプで ID を自動で割り振る場合に使用します。ID を個別に入力する場合は使用しません。

使用属性

「使用属性」で「使用」、「未使用」を指定できる情報があります。
未使用に設定した場合、その登録情報は次のように扱われます。

- 接続先情報 : そのデータベースに紐付く全ての操作を行うことはできません。
- テーブル情報 : そのテーブルに対するすべてのアクセスを行うことはできません。
- 列情報 : その列は検索、追加、更新などのすべての処理で表示されなくなります。
- ユーザー情報 : そのユーザーはシステムにログインすることができません。

「続けて・・・する」のチェックボックス

追加、更新画面で「続けて・・・する」のチェックボックスがあります。
選択して実行すると、連続して追加または更新を行うことができます。

2. システム設定

システム設定は、システム管理に関するすべての操作を開始するメニュー画面です。

データベースやテーブル、グループやユーザーなどの設定は、すべて【システム設定】画面から開始します。

システム設定は、システム管理ユーザーだけがアクセスすることができます。
一般ユーザーは、【システム設定】画面に移動することができません。

- 操作手順 -

1. システム管理ユーザーでログインする。
2. 画面右上の「システム設定」をクリックして、【システム設定】画面に移動する。

ユーザー情報のシステム管理権限に関する設定は『ユーザー情報』を参照してください。

3. 接続先情報

接続先情報は、データベースの接続に関する情報を設定します。

接続先情報は、データベースの種類、アドレス、スキーマとパスワード、JDBC ドライバ等のデータベースに接続するための情報を設定します。

接続先情報は、同じ情報を複数登録することができるため、権限や表示を変更して、用途別にデータベースへのアクセス環境を提供することもできます。

- 操作手順 -

1. 【システム設定】画面に移動する。
2. 「接続先情報」をクリックして、【接続先情報 一覧】画面に移動する。
現在、登録されているデータベースの接続先に関する一覧が表示される。

【接続先情報 一覧】画面の一覧は、【メインメニュー】画面の「接続先...」のリストボックスに対応します。

接続先情報の項目

接続先情報の設定は、[接続先情報 追加 / 更新]画面にある、「入力例を表示」をクリックして表示される画面を参考にすることができます。

表示名

接続先情報の名前(システム名やデータベース名など)を指定します。

データベース

データベースの種別を指定します。

スキーマ名

データベースに登録されているスキーマ名(ユーザー名)を指定します。

データベースの種類によっては大文字小文字が区別されます。

パスワード

データベースに登録されているスキーマのパスワードを指定します。

データベースの種類によっては大文字小文字が区別されます。

接続方法

接続方法を選択します。JNDI 接続を利用する場合のみ「JNDI」を選択します。

通常は、「直接」を選択してください。

接続 URL

データベースに対応する接続 URL 記述子を指定します。

接続 URL 記述子の入力例に関しては『インストールマニュアル』を参照してください。

JDBC ドライバ

データベースに該当する JDBC ドライバを選択(または指定)します。

JDBC ドライバの配置、値に関しては『インストールマニュアル』を参照してください。

コンテキスト名 (JNDI 接続の場合のみ必須)

JNDI 接続を利用する場合のみ、JNDI の接続記述子を指定します。

通常は、未入力のままにしてください。

バージョン

利用する JDBC ドライバに対応するバージョンを指定します。

通常は、「JDBC1.22」を選択してください。

メインメニュー

【メインメニュー】画面で表示される全ユーザーのデフォルトの表示状態、表示色を指定します。テーブル情報で表示色が指定されていない場合、この表示色がデフォルトの表示色として適用されます。

接続先ロック

この接続先情報をロック状態にする場合、チェックを選択します。

アクセス権限

この接続先情報のデフォルトのアクセス権限を指定します。「無」を指定した場合、ユーザーやグループに個別にアクセス権限を付与しない限り、この接続先情報を選択してデータベースにアクセスすることを制限することができます。

接続テスト

「実行する」を選択した場合、設定内容に従ってデータベースの接続をテストしてから入力値を確定します。データベースの接続に失敗すると画面最下部に詳細なエラー情報が表示されます。

特別な事情がない限り、接続テストを行って追加、更新を行ってください。

接続先情報の設定に失敗する場合

接続先情報の設定が正しく完了しない場合、以下のエラーメッセージに対応する内容を調べてください。

「指定の JDBC ドライバが見つかりません。」

Web アプリケーションをインストールしたサーバに、JDBC ドライバが正しく配置されていない可能性があります。

『インストールマニュアル』に従って、データベースに対応する JDBC ドライバが正しく配置されているか確認してください。また、データベースのバージョンと JDBC ドライバの整合性の問題の可能性もあるため、各バージョンを確認してください。

「指定の情報に該当するデータベースの接続に失敗しました。」

スキーマ、パスワード、接続 URL、JDBC ドライバの内容が正しく指定されているか確認してください。いずれかの値が正しく指定されていない可能性があります。

4. カテゴリ情報

カテゴリ情報は、接続先情報に紐づくテーブルをグループ分けして管理します。

カテゴリ情報は、接続先情報に紐づくテーブルを各カテゴリにグループ分けして表示するために設定します。

- 操作手順 -

1. [システム設定]画面に移動する。
2. 「カテゴリ情報」をクリックして、[カテゴリ情報 一覧]画面に移動する。
3. 「接続先...」リストボックスからカテゴリの設定を行う接続先情報を選択する。
選択した接続先情報に紐づくカテゴリ情報の一覧が表示される。

[カテゴリ情報 一覧]画面の一覧は、[メインメニュー]画面の「カテゴリ...」のリストボックスに対応します。

カテゴリ情報の項目

表示名

カテゴリ情報の名前(日本語名など)を指定します。

デフォルト

[メインメニュー]画面で、デフォルトで初期選択の状態にする場合、「はい」を選択します。

5. カテゴリ-テーブル一括設定

カテゴリ-テーブル一括設定では、カテゴリとテーブルを一括して紐付けることができます。

カテゴリ-テーブル一括設定では、カテゴリとテーブルを一括して紐付けることができます。

- 操作手順 -

1. [システム設定]画面に移動する。
2. 「カテゴリ-テーブル一括設定」をクリックして、[カテゴリ-テーブル一覧]画面に移動する。
3. 「接続先...」、「カテゴリ...」リストボックスから該当する項目を選択する。
4. 「選択」ボックスを指定して「更新」ボタンを押下する。

「接続先...」、「カテゴリ...」が選択されるまで「更新」ボタンを押下することはできません。

「絞込み」チェックボックスを選択することで、現在選択されているカテゴリに紐づくテーブルのみを表示することができます。

6. テーブル情報

テーブル情報は、テーブルに関する基本情報を管理します。

テーブル情報は、接続先情報に紐づくデータベースのテーブルの情報を取り込んで、設定します。

同じテーブル情報を複数登録することができるため、権限や表示を変更して、用途別にテーブルへのアクセスを提供することができます。

テーブル情報は、データベース上のテーブルの構造に関する情報を本ソフトに取り込んで保持し、その情報によって操作が行われます。

従って、データベース上のテーブルの構造が変更された場合は、再度テーブル情報を設定する必要があります。

- 操作手順 -

1. [システム設定]画面に移動する。
2. 「テーブル情報」をクリックして、[テーブル情報 一覧]画面に移動する。
3. 「接続先...」リストボックスからデータベースの接続先を選択する。
必要に応じて、「カテゴリ...」リストボックスから該当するカテゴリを選択して、テーブル情報を絞り込む。
選択した接続先情報、カテゴリ情報に紐づくテーブル情報の一覧が表示される。

テーブル情報の項目

スキーマ名

テーブルを保持するスキーマ名(ユーザー名)を指定します。

通常は、初期値のまま変更する必要がありません。

【テーブル情報 追加】画面の場合、右のリストボックスからデータベースに存在するスキーマ名一覧から選択することができます。

更新時は、大文字小文字の変換を除いて変更しないでください。

スキーマ名を利用する

接続先のスキーマ名と、テーブルのスキーマ名が異なる場合(スキーマ名 + テーブル名でデータベースにアクセスする必要がある場合)、必ず選択する必要があります。

通常は、初期状態のまま変更する必要がありません。

テーブル名

データベースにあるテーブルの名前を指定します。

【テーブル情報 追加】画面の場合、右のリストボックスからスキーマが保持するテーブル名一覧から選択することができます。

表示名

テーブルの表示名(日本語名等)を指定します。

種別

テーブルまたはビューを指定します。

表示上のアイコンが変更されるだけで、処理の制限等に変更はありません。

表示属性

【レコード一覧】画面で表示されるデフォルトの表示状態を指定します。

操作属性

このテーブルのデフォルトの操作権限の有無を指定します。

操作権限を未選択にした場合、グループやユーザーに個別に操作権限を付与しない限り、このテーブルに対する操作が制限されます。

レコードロック時間

データのロックの時間を分単位で指定します。
未指定の場合、レコード単位のロックは行われません。

レコードロックとは？

ユーザーがデータの更新を行っている間(更新画面を開いている間)、他のユーザーが同じデータの更新・削除を行えないように制限する機能をレコードロックといいます。
この機能により、誤って他のユーザーが処理中のデータを上書き・削除することを防ぐことができます。
更新を確定するか更新画面から戻ることによって自動的にロックは解除されます。

ダウンロード ファイル名

CSV ダウンロードを行ったときのデフォルトの保存ファイル名を指定します。
未指定の場合、テーブル名 + 拡張「csv」がダウンロードファイル名になります。
テーブル名が半角英数字以外の場合、必ず指定してください。

デフォルト属性

【レコード一覧】画面でのデフォルトの表示件数を指定します。

表示色

このテーブル情報の操作画面の基本色を指定します。未指定の場合、接続先情報の表示色が適用されます。

表示制限

【レコード一覧】画面で問い合わせ可能な最大の件数を指定します。
この件数以上から一覧画面を表示しようとした場合、検索条件で件数を絞り込むまで表示されないため、サーバが高負荷の状態になるのを防ぐことができます。
パフォーマンスを考慮して、サーバの PC のスペックに見合った表示制限を指定してください。

説明

【メインメニュー】画面で表示される説明文を指定します。

カテゴリ

このテーブルが紐付くカテゴリを指定します。

テーブルロック

このテーブル情報をロック状態にする場合、チェックを選択します。

アクセス権限

このテーブル情報のデフォルトのアクセス権限を指定します。

「無」を指定した場合、ユーザーやグループに個別にアクセス権限を付与しない限り、このテーブル情報に対するアクセスが制限されます。

7. テーブル情報 一括登録

テーブル情報は、スキーマが保持する全テーブルを一括して登録することができます。

一括登録では、指定のスキーマが保持するすべてのテーブルを一括して登録することができます。

- 操作手順 -

1. [システム設定]画面に移動する。
2. 「テーブル情報」をクリックして、[テーブル情報 一覧]画面に移動する。
3. 「操作…」リストボックスから「一括登録」を選択して[テーブル情報 一括登録]画面に移動する。
4. スキーマ名を指定して「実行」ボタンを押下する。

接続先情報のスキーマ名と異なるスキーマ名のテーブル情報を追加する場合、「スキーマ名を利用する」を選択してください。

追加されたすべてのテーブル情報の「ID」はタイムスタンプによって自動で割り振られます。同じスキーマ名、テーブル名が既に登録されている場合、そのテーブル情報の追加は行われません。

8. テーブル制限

テーブル制限では、テーブルの各レコードに制限を設定することができます。

テーブル制限では、テーブルのレコードの値に応じて、表示、更新、削除の制限を行うことができます。

フォーム型と組み合わせによっては、自分のデータのみ更新、削除可能、といったテーブル共通の制限を設定することができます。

- 操作手順 -

1. [システム設定]画面に移動する。
2. 「テーブル情報」をクリックして、[テーブル情報 一覧]画面に移動する。
3. 該当するテーブルの「制限」アイコンをクリックして[テーブル制限 更新]画面に移動する。
4. それぞれ表示、更新、削除を許可する条件を指定する。

制限は、表示、更新、削除のいずれか(またはすべて)を設定することができます。

「制限を設定する」のチェックが選択されていない場合、その制限は行われません。

9. 列情報

列情報は、テーブルの列に関する設定を管理します。

各列の設定を行うことで、

- ・ 【レコード一覧】画面での列の表示名や表示位置、表示の有無
- ・ データの追加、更新画面での入力フォームと型
- ・ バイト数、桁数などから入力チェック

などを設定することができます。

- 操作手順 -

1. 【システム設定】画面に移動する。
2. 「テーブル情報」をクリックして、【テーブル情報 一覧】画面に移動する。
3. 【テーブル情報 一覧】画面の一覧から該当するテーブルの「詳細」アイコンをクリックして【列情報 一覧】画面に移動する。
選択したテーブル情報が保持するすべての列情報の一覧が表示される。

列情報の項目（共通）

列名

データベース上の列名です。列名は大文字小文字の変換以外の変更はできません。

表示名

列の表示名(日本語名等)を指定します。

SQL 型

SQL 型はテーブル情報を取り込んだときに自動で決定され、変更することはできません。

Java 型

Java 型は、データベースのアクセス方法と入力チェックの判別に利用されます。

初期状態からの変更は可能ですが、SQL 型と Java 型には互換性がある必要があります。

SQL 型と Java 型の互換性は下記の表を参照してください。

フォーム型

データの追加、更新画面での入力フォームを指定します。

SQL 型および Java 型の組み合わせによって指定できるフォーム型の種類は制限されます。

フォーム型の各詳細は下記の表を参照してください。

選択アシスト

特定のフォーム型の場合、選択アシストを指定することができます。

選択アシストを指定すると、「アシスト情報」で登録した選択リスト一覧が、追加・更新画面の入力項目の右にリストボックスで表示されるようになり、入力内容を選択して挿入することができるようになります。

制約

制約を設定すると、追加・更新の確定前に以下の内容がチェックされるようになります。

また、制約に対応するアイコンが表示されるようになります。

種別	チェック内容
主キー	一意 + NOT NULL
一意	値が指定されている場合、同じ列内で一意かどうかを検証
NOT NULL	値が未指定でないかどうかを検証
外部参照	アイコンの表示のみ。
入力必須	NOT NULL と同じ。ただし、NN のアイコンは表示されない。

各テーブルには最低1つ(または複数の組み合わせによる)主キーの設定が必要です。

バイト数

この列値のバイト数を指定します。この値は最大サイズとして入力チェックに利用されます。

表示制限

表示制限のバイト数を指定した場合、【レコード一覧】画面でこのバイト数を超えた文字列は切り捨てて表示されます。

表示位置

【レコード一覧】画面でのデフォルトの表示位置を指定します。
「非表示」の場合、【レコード一覧】画面で表示されなくなります。

表示属性

フォントの表示色、表示方法を指定します。

背景色

データの追加、更新、参照画面での項目名の背景色を指定します。

読取専用

データの追加、更新画面で表示専用になり、値を編集することはできなくなります。

更新読取専用

データの更新画面で表示専用になります。追加画面で確定した値を以降で変更させない場合(登録日や登録者など)に指定します。

トリム

CHAR 型など、文字列の前後にある半角スペースを自動で除去する場合、指定します。

日本語入力

データの追加、更新画面の最大バイト数の表示が、「半角 10 桁」などの表示から「全角 5 文字」の表示に変更されます。入力チェックなど処理の制御には関係しません。

単位

各画面で、この列の値の前または後に、指定した単位が表示されるようになります。

入力制限

以下の種別に対応する入力制限を行うことができます。

種別	制限内容
半角	1 バイト文字のみ
半角英数	a~z, A~Z, 0~9 の文字のみ
半角カタカナ	半角カタカナ、半角スペースのみ
全角	2 バイト文字のみ
全角英数	全角文字 a~z, A~Z, 0~9 の文字のみ
全角ひらがな	全角ひらがなのみ
全角カタカナ	全角カタカナ、全角スペースのみ
郵便番号	0~9, - が一つのみ
電話番号	0~9, - が二つのみ
メールアドレス	a~z, A~Z, 0~9, @, ., _ / & の文字のみ

最小値、最大値

最小値、最大値またはその両方を指定することにより、入力範囲を制限することができます。

初期値

データの追加画面が最初に表示された場合の初期状態での入力(または選択)されている初期値を指定します。

アシスト情報が設定されている場合、右の選択ボックスから選択することができます。
フォーム型が日付型の場合、システム日付を指定することで実行日時を適用できます。

デフォルト値

データの追加、更新画面で、値が未指定のまま実行された場合に適用するデフォルト値を指定します。

アシスト情報が設定されている場合、右の選択ボックスから選択することができます。
フォーム型が日付型の場合、システム日付を指定することで実行日時を適用できます。

数値型の項目

桁数

Java 型が数値型の場合、この桁数の指定が有効になります。

整数桁、小数桁を指定することで数値の入力制限を行うことができます。

桁数フォーマット

整数桁、小数桁を指定して、桁数フォーマットを指定すると、1.00 のように小数点以下の桁埋めを強制して表示することができます。

桁区切り

「1,000」のように数値を 3 桁区切りで表示します。

負の数の表示方法

値が負の数の場合の表示方法を指定します。

テキストエリアの項目

横数、縦数

テキストエリアの横数および縦数を数値で指定します。

自動改行

自動改行の処理方法を指定します。未指定の場合、ブラウザのデフォルトで処理されます。

種別	チェック内容
off (なし)	入力画面、データの送信とも自動改行は行われません
hard (全て)	入力画面、データの送信とも自動改行を有効として処理します
soft (入力)	入力画面の表示の場合のみ自動改行を有効として処理します

バイナリデータの項目

ダウンロード ファイル名

バイナリデータのダウンロードを行った場合のデフォルトのファイル名を指定します。

未指定の場合、列名 + (.bin) になります。

列名が半角英数字以外の文字の場合、必ず指定してください。

画像リンクの項目

サムネイル

[レコード一覧]画面で表示する画像の縦または横(またはその両方)のサイズをピクセル単位で指定します。

ファイル属性

画像ファイルの種別を指定します。

ネットワークの場合 : http:// ~ や ¥¥ で始まるネットワーク共有ファイルの場合

サーバーローカルの場合: C:¥ などサーバーのローカルファイルの場合

自動採番の項目

自動採番

フォーム型が自動採番の場合、指定する必要があります。

[開始番号]で採番を開始する数値を指定します。また、[桁埋め]を指定するとバイト数になるまで値の左側の桁を自動的に 0 で桁埋めします。

シーケンスの項目

シーケンス名

シーケンスの値を取得する SQL(NEXTVAL 値)を指定します。

フォーム型

各列情報のフォーム型を設定することで、データの編集画面の入力フォームを変更することができます。

フォーム型の設定が正しくない場合、[データの追加・更新]画面はデフォルトのテキストフィールドで表示されるか、または警告メッセージが該当フィールドに表示されます。

フォーム型一覧

テキストフィールド	1000 (半角英数10桁)
選択アシスト	選択アシスト 選択... (半角英数20桁)
テキストエリア	テキストエリア1行目 テキストエリア2行目 (半角100桁)
パスワード	***** (半角10桁) <input checked="" type="checkbox"/> 更新
リストボックス	リストボックス1
ラジオボタン	<input checked="" type="radio"/> ラジオボタン1 <input type="radio"/> ラジオボタン2
チェックボックス	<input type="checkbox"/> チェックボックス
日付ボックス	2005年 07月 20日
日付時刻ボックス	2005年 07月 20日 00時 00分 00秒
時刻ボックス	00時 00分 00秒
カレンダー	2005/07/20 (yyyy/MM/dd)
バイナリデータ	247 bytes 更新 削除
サブウィンドウ	選択... クリア
URL リンク	http://www.i2c.jp (半角英数20桁)
画像リンク	¥¥server¥DS10012.gif (半角英数20桁)
メールリンク	product@i2c.jp (半角25桁)
計算フィールド	1 (整数10桁)
自動採番	(自動採番)
シーケンス	1 (シーケンス)
システム日付	2005/08/14 (システム日付)
システム自動	(システム自動)
グループ選択	グループ...
ユーザー選択	ユーザー... グループ...
ユーザーID	ユーザー名

テキストフィールド

ブラウザ標準のテキストフィールドです。文字列を入力するフィールドです。

テキストエリア

ブラウザ標準のテキストエリアです。改行を含む文字列を入力するフィールドです。

パスワード

ブラウザ標準のパスワードです。文字列を入力するフィールドです。

レコード一覧、データ参照画面では値の内容に関わらず「***...」で表示されます。

リストボックス

ブラウザ標準のリストボックスです。リストボックスから項目を選択するフィールドです。

アシスト情報またはリレーション情報にもとづく値と表示名で構成されます。

ラジオボタン

ブラウザ標準のラジオボタンです。ラジオボタンから項目を選択するフィールドです。

アシスト情報またはリレーション情報にもとづく値と表示名で構成されます。

チェックボックス

ブラウザ標準のチェックボックスです。チェックボックスのチェックを選択するフィールドです。

アシスト情報の最初の項目にもとづく値と表示名で構成されます。

日付ボックス

年月日の日付を、それぞれリストボックスから選択するフィールドです。

選択ボックス右のアイコンで現在日付の指定、値のクリアを行えます。

日付時刻ボックス

年月日時分秒の日付時刻を、それぞれのリストボックスから選択するフィールドです。

選択ボックス右のアイコンで現在日付時刻の指定、値のクリアを行えます。

時刻ボックス

時分秒の時刻を、それぞれのリストボックスから選択できます。

選択ボックス右のアイコンで現在時刻の指定、値のクリアを行えます。

カレンダー

【カレンダー選択】画面から日付を選択、または直接日付を入力するフィールドです。
入力フィールド右のアイコンで現在日付の指定が行えます。

バイナリデータ

バイナリデータをダウンロード、更新、削除するフィールドです。
【データ追加】画面では、このフィールドは画面には表示されません。
【データ更新】画面ではダウンロード、更新、削除が行えます。

サブウィンドウ(選択)

リレーション情報にもとづく表示名を、サブウィンドウから選択するフィールドです。
この列を結合元にしたリレーション情報を必ず設定する必要があります。

サブウィンドウ(検索)

リレーション情報にもとづく表示名を、サブウィンドウから検索・選択するフィールドです。
この列を結合元にしたリレーション情報を必ず設定する必要があります。

URL リンク

URL や共有サーバのパスを指定するフィールドです。
【レコード一覧】画面と【データ表示】画面ではリンク形式で表示され、クリックすることで URL のファイルを別ウィンドウから開くことができます。

画像リンク

画像ファイル(GIF,JPG,PNG)をサムネイルで表示するフィールドです。
画像ファイルの値にはネットワークファイルまたはサーバーローカルファイルを指定します。
参照系の画面では、リンク形式の画像がサムネイル表示され、クリックすることで対象の画像を別ウィンドウから開くことができます。

メールリンク

メールアドレスをリンク形式で表示するフィールドです。
参照系の画面で、「mailto:~」のリンクで表示されます。

計算フィールド

数値の加算減算を行って数値を決定するフィールドです。

右側の入力フィールドに +, - の符号付きの数値を指定することで、元の値と加算減算を計算して更新する値が決定されます。

シーケンス

データ登録時にデータベース上のシーケンス(順序)オブジェクトから値を設定するフィールドです。

システム日付

日付型、日時型、時刻型に対応する実行時のシステム日付を自動で設定するフィールドです。

システム自動

データの登録・更新時に列の処理をスキップするフィールドです。

この列にデータベース上のデフォルト制約が設定されている場合など、更新する値を本ソフトからは行わず表示だけさせたい場合に設定します。

グループ選択

グループ情報の一覧からグループを選択するフィールドです。

データベースにはグループ情報の ID(最大 13 桁)が格納されます。

ユーザー選択

ユーザー情報の一覧からユーザーを選択するフィールドです。

データベースにはユーザー情報のユーザーID(最大 13 桁)が格納されます。

ユーザーID

現在処理しているユーザーのユーザーIDを自動で設定するフィールドです。

データベースにはユーザー情報のユーザーID(最大 13 桁)が格納されます。

SQL 型と Java 型の互換性

データベースから値を取得、更新する場合や、入力チェックに利用される [Java 型] は、次の一覧表の互換性にもとづいて変更が可能です。

SQL 型		Java 型							
分類	型名	文字	整数	小数	日付	日時	時刻	バイナリ	ビット
文字型	CHAR	○	○	○	○	○	○	-	-
	VARCHAR	○	○	○	○	○	○	-	-
	LONGVARCHAR	○	○	○	○	○	○	-	-
整数 (整数)	TINYINT	-	○	-	-	-	-	-	-
	SMALLINT	-	○	-	-	-	-	-	-
	INTEGER	-	○	-	-	-	-	-	-
	BIGINT	-	○	-	-	-	-	-	-
整数 (小数)	FLOAT	-	-	○	-	-	-	-	-
	DOUBLE	-	-	○	-	-	-	-	-
	REAL	-	-	○	-	-	-	-	-
	NUMERIC	-	-	○	-	-	-	-	-
	DECIMAL	-	-	○	-	-	-	-	-
日付型	DATE	-	-	-	○	-	-	-	-
	TIME	-	-	-	-	○	-	-	-
	TIMESTAMP	-	-	-	○	○	○	-	-
バイナリ 型	BINARY	-	-	-	-	-	-	○	-
	BLOB	-	-	-	-	-	-	○	-
	CLOB	-	-	-	-	-	-	○	-
	JAVA_OBJECT	-	-	-	-	-	-	○	-
	LONGVARBINARY	-	-	-	-	-	-	○	-
	LONGVARCHAR	-	-	-	-	-	-	○	-
	VARBINARY	-	-	-	-	-	-	○	-
ビット型	BIT	-	-	-	-	-	-	○	-
その他	UNKNOWN	-	-	-	-	-	-	-	-

10. 列情報 一括更新

列情報は、制約、表示名、表示位置、背景色を一括して更新することができます。

列情報の一括更新は、【列情報 一覧】画面から一括更新画面に移動して実行します。

- 操作手順 -

1. 【システム設定】画面に移動する。
2. 「テーブル情報」をクリックして、【テーブル情報 一覧】画面に移動する。
3. 【テーブル情報 一覧】画面の一覧から該当するテーブルの「詳細」アイコンをクリックして【列情報 一覧】画面に移動する。
4. 「操作…」リストボックスから、「一括更新」を選択して一括更新画面に移動する。

各テーブルには最低1つ(または複数の組み合わせからなる)の主キーを指定する必要があります。

「表示位置」では最低1つ以上の【レコード一覧】画面で表示する列が必要です。

11. アシスト情報

アシスト情報は、列値に対応する表示名の設定を管理します。

列情報のフォーム型が、リストボックス、ラジオボタン、チェックボックス、選択アシストのいずれかに設定されている場合、アシスト情報を設定することができます。

- 操作手順 -

1. [システム設定]画面に移動する。
2. 「テーブル情報」をクリックして、[テーブル情報 一覧]画面に移動する。
3. [テーブル情報 一覧]画面から該当するテーブルの「詳細」アイコンをクリックして[列情報 一覧]画面に移動する。
4. アシスト情報に対応するフォーム型が設定されている場合、[列情報 一覧]画面のフォーム型がリンクになっているので、対象列のフォーム型をクリックして[アシスト情報 一覧]画面に移動する。

列情報に対応するアシスト情報一覧が表示される。

アシスト情報の項目

列値

列値(データの追加、更新でテーブルに格納される値)を指定します。

表示名

列値に対応するリストボックス、ラジオボタン、チェックボタン、選択アシストで表示される表示名を指定します。

表示属性

このアシスト情報で表示するフォントの表示色や表示方法を指定します。

初期値

データの追加画面の初期表示で選択状態にする場合、「はい」を指定します。

デフォルト値

データの追加、更新画面でこの列の値が未指定の場合に適用する場合、「はい」を指定します。

12. ビュー情報

ビュー情報は、レコード一覧の表示ビューを管理します。

ビュー情報は、一覧形式の通常ビュー、カタログ形式のカタログビューを複数、用意することができます。

- 操作手順 -

1. 【システム設定】画面に移動する。
2. 「テーブル情報」をクリックして、【テーブル情報 一覧】画面を移動する。
3. 【テーブル情報 一覧】画面の一覧から該当するテーブルの「詳細」アイコンをクリックして【列情報 一覧】画面に移動する。
4. 「操作…」から「ビュー一覧」を選択して、【ビュー情報 一覧】画面に移動する。
このテーブルに登録されているビュー情報の一覧が表示される。

【ビュー情報 一覧】画面の一覧は、【レコード 一覧】画面の「ビュー…」リストボックスに対応します。

ビュー情報の項目（共通）

種別

通常ビューとカタログビューのどちらからを選択します。

表示名

このビューの表示名を指定します。

デフォルト

このビュー情報を、[レコード一覧]画面のデフォルトで選択状態にする場合、「はい」を指定します。

通常ビューの項目

表示位置

列名一覧のそれぞれの表示位置を指定します。

カタログビューの項目

枠数

レコード一覧で表示する横枠の数を指定します。

列数

各レコードのフィールドをレイアウトする列の数を指定します。

レイアウト

各列のレイアウト位置を指定します。

13. レイアウト情報

レイアウト情報は、レコードの追加、更新、参照画面のフィールドのレイアウトを管理します。

レイアウト情報は、レコードの追加、更新、参照画面のフィールドのレイアウトに関する情報を管理します。用途に応じた表示 / 入力用のレイアウトを複数、用意することができます。

- 操作手順 -

1. 【システム設定】画面に移動する。
2. 「テーブル情報」をクリックして、【テーブル情報 一覧】画面に移動する。
3. 【テーブル情報 一覧】画面の一覧から該当するテーブルの「詳細」アイコンをクリックして【列情報 一覧】画面に移動する。
4. 「操作…」から「レイアウト一覧」を選択して、【レイアウト情報 一覧】画面に移動する。
このテーブルに登録されているレイアウト情報の一覧が表示される。

【レイアウト情報 一覧】画面の一覧は、レコードの追加、更新、参照画面の「レイアウト…」リストボックスに対応します。

レイアウト情報の項目

表示名

このレイアウトの表示名を指定します。

列数

フィールドの横の数を指定します。

レイアウト

レコードの追加、更新、参照画面で表示される項目のレイアウトを指定します。

主キーおよび一意キー、NOT NULL の列は、自動で決定されるフォーム型 : 自動採番、シーケンス、システム日付、システム自動、ユーザーID のフォーム型でない場合は必ず指定する必要があります。

デフォルト

このレイアウト情報を、デフォルトで選択状態にする場合、「はい」を指定します。

14. リレーション情報

リレーション情報は、テーブル同士の連携を管理します。

リレーション情報は、テーブル同士を列値で組み合わせる表示、入力させることができる情報を管理します。

列情報に、リレーション情報を設定すると、リストボックス、ラジオボタン、サブウィンドウ(選択)、サブウィンドウ(検索)のフォーム型を指定して、参照先のテーブルの項目名から値を選択することができます。

- 操作手順 -

1. [システム設定]画面に移動する。
2. 「テーブル情報」をクリックして、[テーブル情報 一覧]画面を移動する。
3. [テーブル情報 一覧]画面の一覧から該当するテーブルの「詳細」アイコンをクリックして[列情報 一覧]画面に移動する。
4. 「操作…」から「リレーション 一覧」を選択して、[リレーション情報 一覧]画面に移動する。

このテーブルに登録されているリレーション情報の一覧が表示される。

リレーション情報で設定する結合元と結合先の列は、データベース上で互換性のある列同士を指定してください。

リレーション情報の項目

結合元のテーブル名

現在選択されている結合元になるテーブル名が表示されます。

結合元の列名

結合元になる列の列名を指定します。

結合先のテーブル名

結合先のテーブル名を指定します。

このテーブルの列値と結合元の列値をキーにして、表示名を表示することができます。

「結合先のテーブル名」を選択することで、「結合先の列名」、「結合先の表示名」が自動で読み込まれます。

結合先の列名

結合先の列名を指定します。

結合元の列と紐付ける、結合先のテーブルの列名を選択します。

この列の値がデータベースに反映される値になります。

結合先の表示名、前後区切り文字、空白、改行

結合先の表示名と表示方法を指定します。

結合元の列のかわりに表示する結合先のテーブルの列名を選択します。

結合種別

結合種別を指定します。

リレーションを指定すると、[レコード一覧]画面の取得は、この結合種別に対応する結合方法でレコード一覧を取得するため、結合先と結合元、結合方法の組み合わせが正しくないと一覧が正しく表示されません。

表示制限

サブウィンドウ(選択)、サブウィンドウ(検索)の一覧表示で表示可能な最大件数を指定します。

この表示制限件数を超えてサブウィンドウで表示させないように制限することができます。

15. 接続先情報一括ロック

接続先情報のロックを行うことで、そのデータベースへのアクセスを制限できます。

接続先情報のロックを行うと、その接続先情報に紐づくすべてテーブルのアクセスを一時的に制限することができます。

接続先情報のロックを行うと、システム管理ユーザーだけがテーブルへのアクセスを行えます。一般ユーザーは【メインメニュー】画面からテーブルを選択することができなくなります。

- 操作手順 -

1. 【システム設定】画面に移動する。
2. 「接続先情報 一括ロック」をクリックして、【接続先ロック設定一覧】画面に移動する。
3. 登録されている接続先情報の一覧が表示されるので、ロックの設定 / 解除を行う接続先情報の「選択」チェックボックスを選択 / 解除して、「更新」ボタンを押下する。

接続先情報のロックは、【接続先情報 更新】画面からそれぞれ行うこともできます。

16. テーブル情報の一括ロック

テーブル情報のロックを行うことで、そのテーブルへのアクセスを制限できます。

テーブル情報のロックを行うと、そのテーブル情報へのアクセスを制限することができます。

テーブル情報のロックを行うと、システム管理ユーザーだけそのテーブルへのアクセスを行えます。
一般ユーザーは【メインメニュー】画面からそのテーブルを選択することができなくなります。

- 操作手順 -

1. 【システム設定】画面に移動する。
2. 「テーブル情報 一括ロック」をクリックして、【テーブルロック設定一覧】画面に移動する。
3. 「接続先...」、「カテゴリ...」から該当する項目を選択して、対象のテーブル一覧を表示する。
4. ロックの設定 / 解除を行うテーブル情報の「選択」チェックボックスを選択 / 解除して、「更新」ボタンを押下する。

テーブル情報のロックは、【テーブル情報 更新】画面からそれぞれ行うこともできます。

17. グループ情報

グループ情報は、ユーザーの属するグループとその権限設定を管理します。

グループを作成して、グループに権限の有無を設定することで、グループに紐付くユーザーの権限を一括して管理することができます。

- 操作手順 -

1. [システム設定]画面に移動する。
2. 「グループ情報」をクリックして、[グループ情報 一覧]画面に移動する。
3. 登録されているグループ情報の一覧が表示される。

グループ情報の項目

ID

グループ情報の ID を指定します。

グループ名

グループの表示名(日本語名等)を指定します。

デフォルト

システム管理の画面共通でデフォルトの選択状態にする場合、「はい」を選択します。

18. グループ-ユーザー一括設定

グループ-ユーザー一括設定で、グループとユーザーを一括して紐付けることができます。

グループ-ユーザー一括設定で、グループとユーザーを一括して紐付けることができます。

- 操作手順 -

1. [システム設定]画面に移動する。
2. 「グループ-ユーザー一括設定」をクリックして、[グループ-ユーザー 一覧]画面に移動する。
3. 「グループ...」リストボックスから対象のグループを選択する。
4. 「選択」チェックボックスを選択 / 解除して「更新」ボタンを押下する。

「グループ...」が選択されるまで「更新」ボタンを押下することはできません。

「絞込み」チェックボックスを選択することで、現在選択されているグループに紐づくユーザーのみを表示することができます。

19. ユーザー情報

ユーザー情報は、システムにログインするためのアカウントを管理します。

ユーザー情報は、システムにログインする各ユーザーのユーザーID やパスワード、表示名などのアカウントを設定します。

- 操作手順 -

1. [システム設定]画面に移動する。
2. 「ユーザー情報」をクリックして、[ユーザー情報 一覧]画面に移動する。
必要に応じて、「グループ...」リストボックスから該当するグループを選択して、ユーザー情報を絞り込む。
3. 選択したグループに属するユーザー情報の一覧が表示される。

ユーザー情報の項目

ユーザーID

ログインで指定するユーザーID を指定します。

ユーザーID は登録が完了すると変更することができません。

パスワード

ユーザーID に対応するパスワードを指定します。

パスワードは各ユーザーがログインして自由に変更することができます。

[ユーザー情報 更新] 画面でパスワードを変更する場合、「パスワードを変更する」を選択する必要があります。

表示名

ユーザーID に該当する表示名(日本語名等)を指定します。

ユーザー権限

ユーザー権限のそれぞれの内容は次の通りです。

種別	制限内容
ログイン権限	ログインを実行してデータベースのアクセス・操作を許可する
システム管理権限	システム管理メニューのアクセス・操作を許可する
デバッグ権限	エラー発生時に全画面の最下部にエラー詳細を表示する

セキュリティの観点から「デバッグ権限」はシステム管理ユーザー以外には付与しないでください。

ログイン失敗回数

このユーザーID で連続してログインに失敗した回数です。

[システム設定] 画面で指定したログインロックの回数に、この回数が到達した場合、自動的にログイン権限がなくなります。

グループ

このユーザーが所属するグループを指定します。

複数のグループの所属させる場合、右の矢印アイコンをクリックしてグループを追加します。

デフォルトの接続先

このユーザーのメインメニューのデフォルトの接続先を指定します。

この設定は、各ユーザーの最後のアクセス操作によって自動的に更新されます。

デフォルトのカテゴリ

このユーザーのメインメニューのデフォルトのカテゴリを指定します。

この設定は、各ユーザーの最後のアクセス操作によって自動的に更新されます。

20. グループ(ユーザー)接続先権限

接続先権限では、グループ、ユーザーの接続先のアクセス権限を管理します。

接続先のアクセス権限のチェックは、接続先 < グループ < ユーザーの各権限を順番に上書きした結果をもとに行われます。

接続先のアクセス権限がない場合、メインメニューの「接続先...」リストボックスには、その接続先名が表示されません。

グループ接続先権限の場合

- 操作手順 -

1. [システム設定]画面に移動する。
2. 「グループ接続先権限」をクリックして、[グループ接続先権限 一覧]画面に移動する。

ユーザー接続先権限の場合

- 操作手順 -

1. [システム設定]画面に移動する。
2. 「ユーザー接続先権限」をクリックして、[ユーザー接続先権限 一覧]画面に移動する。

接続先権限の項目

アクセス権限

アクセス権限を指定します。「デフォルト」を指定すると、上位のアクセス権限になります。

21. グループ(ユーザー)テーブル権限

テーブル権限では、グループ、ユーザーのテーブルの操作権限を管理します。

テーブルの操作権限のチェックは、テーブル < グループ < ユーザーの各権限を順番に上書きした結果をもとに行われます。

テーブルの「操作権限」がない場合、メインメニューには、そのテーブル名が表示されません。

グループテーブル権限の場合

- 操作手順 -

1. [システム設定]画面に移動する。
2. 「グループテーブル権限」をクリックして、[グループテーブル権限 一覧]画面に移動する。

ユーザーテーブル権限の場合

- 操作手順 -

1. [システム設定]画面に移動する。
2. 「ユーザーテーブル権限」をクリックして、[ユーザーテーブル権限 一覧]画面に移動する。

テーブル権限の項目

操作権限

テーブルのアクセスを許可するかどうかの権限です。

操作権限がない場合、そのテーブルの全ての操作を行うことができません。

追加権限

レコードの追加を行う権限です。

更新権限

レコードの更新を行う権限です。

削除権限

レコードの削除を行う権限です。

アップロード権限

CSV でのアップロードを行う権限です。

ダウンロード権限

CSV でのダウンロードを行う権限です。

一括削除権限

レコード一覧を一括して削除する権限です。

条件保存権限

ユーザーごとの検索条件の保存、更新、削除を行う権限です。

22. グループ(ユーザー)列権限

列権限では、グループ、ユーザーごとのフィールドの表示、編集権限を管理します。

列権限では、テーブルの各フィールドごとの表示、編集、更新の権限を設定することができます。列権限のチェックは、列、グループ、ユーザーの権限を順番に上書きして行われます。

グループ列権限の場合

- 操作手順 -

1. [システム設定]画面に移動する。
2. 「グループテーブル権限」をクリックして、[グループテーブル権限 一覧]画面に移動する。
3. 設定するテーブルの「詳細」アイコンをクリックして[グループ列権限 一覧]画面に移動する。

ユーザー列権限の場合

- 操作手順 -

1. [システム設定]画面に移動する。
2. 「ユーザーテーブル権限」をクリックして、[ユーザーテーブル権限 一覧]画面に移動する。
3. 設定するテーブルの「詳細」アイコンをクリックして[ユーザー列権限 一覧]画面に移動する。

主キー、NOT NULL、必須項目の列で、値を入力して確定する列の権限ない場合、追加の処理は正しく完了しません。

列権限の項目

表示権限

この列の値を表示する権限です。

表示権限がない場合、追加、更新で値を指定することもできません。

編集権限

レコードの追加、更新の処理で値を指定する権限です。

編集権限がない場合、追加、更新の処理で読取専用として表示されます。

更新権限

この列の値を更新処理で指定する権限です。

更新権限がない場合、更新の処理で読取専用として表示されます。

編集権限がない場合、更新権限の有無に関わらず更新権限はないものとして扱われます。

23. 共通設定

共通設定は、システム全体の動作・設定に関する値を管理します。

- 操作手順 -

1. [システム設定]画面に移動する。
2. 「共通設定」をクリックして、[共通設定]画面に移動する。
3. 現在の設定値が更新画面で表示される。

共通設定の項目

ログディレクトリ

アクセスログのログファイルの出力先のディレクトを指定します。

例: C:\temp\log

ログレベル

ログファイルのログレベルを指定します。

ログレベル	内容
レベル0 (なし)	ログ出力なし
レベル1 (通常)	アクセスログ
レベル2 (エラー)	レベル1 + SQL、エラー情報、エラーログを出力
レベル3 (デバッグ)	レベル2 + 実行時エラーの詳細な情報を出力

ログインロック

ユーザーID に該当するログインの失敗が連続してこの回数に到達すると自動的にログイン権限がなくなるまでのログイン試行回数を指定します。

未指定の場合、何回ログインに失敗しても自動的にログイン権限がなくなることはありません。

セッション有効時間

セッションの有効時間を分単位で指定します。(-1は無制限)

未指定の場合、アプリケーションサーバのデフォルトのセッション有効時間になります。

CSV ダウンロード

CSV ダウンロードの結果の CSV ファイルの各列のデフォルトの区切り文字を指定します。

CSV アップロード

CSV アップロードでアップロードを行う場合の各列のデフォルトの区切り文字を指定します。

ログイン画面

画面右上の「ログアウト」の表示文字を指定します。デフォルトは、「ログアウト」です。

ログアウト表示

ログイン画面の画像を変更します。http または Web サーバの相対パスから存在する画像ファイル(gif, jpg, png)を指定してください。

ログアウト URL

画面右上の「ログアウト」をクリックした後の画面遷移を指定の URL(http://...)に変更することができます。デフォルトは、ログイン画面に遷移します。

WEB 入力エンコーディング

Web 入力側の文字エンコーディングを指定します。

問題がない限り初期設定のまま変更しないでください。

XML 出力エンコーディング

XML 入出力の文字エンコーディングを指定します。

問題がない限り初期設定のまま変更しないでください。

ダウンロードエンコーディング

CSV ダウンロードの文字エンコーディングを指定します。

アップロードエンコーディング

CSV アップロードの文字エンコーディングを指定します。

24. 祝日設定

祝日設定は、カレンダーウィンドウの祝日表示を管理します。

カレンダーウィンドウのデフォルトの表示は、2000年から2010年までの標準の祝日が設定されています。

- 操作手順 -

4. [システム設定]画面に移動する。
5. 「祝日設定」をクリックして、[祝日情報 一覧]画面に移動する。
必要に応じて、「年...」リストボックスから該当する年を選択して表示を切り替える。
選択した年の登録済の祝日情報一覧が表示される。

祝日情報の項目

年月日

祝日を設定する年月日を指定します。

表示名

カレンダーウィンドウで該当日にマウスカーソルを合わせた場合に表示される表示名を指定します。

表示属性

表示する日付文字の表示色、属性を指定します。

背景色

この日付の背景色を指定します。

25. ログイン認証

ログイン認証では、システムへのログイン方法を設定することができます。

ログイン認証は、システムへのログイン方法を、デフォルトのユーザー情報一覧のユーザーID とパスワードからログインと、指定のデータベーステーブルのユーザーID 列とパスワード列からのログインを選択して設定することができます。

データベース認証でログインに成功したユーザー情報が、ユーザー情報一覧に登録されていない場合、自動的にユーザー情報一覧に追加されます。

また、データベース認証でログインを行い認証に失敗した場合、デフォルト認証でログインの認証が続けて行われます。

データベース認証を設定するには、認証に利用するユーザーID とパスワードの列があるテーブルとその接続先情報を事前に登録しておく必要があります。

- 操作手順 -

1. [システム設定]画面に移動する。
2. 「ログイン認証」をクリックして、[ログイン認証 更新]画面に移動する。
3. 認証方法を選択して、該当する情報を指定する。

26. ライセンスキーの登録

ライセンスキーの登録を行うことで製品版として運用することができます。

製品コードに対応するライセンスモジュールを配置し、ライセンスキーを指定することで、製品版として運用することができます。

- 操作手順 -

1. [システム設定]画面に移動する。
2. 「ライセンスキーの登録」をクリックして、[ライセンスキーの登録]画面に移動する。
製品コードに対応するライセンスキーを指定して、「更新」ボタンを押下する。

WEB マスタメンテ 2.0

I2C WEB Master Mainte 2.0

製品仕様

製品名称

WEB マスタメンテ 2.0

サーバー環境

サーバーOS

JRE 1.22 以上が動作する OS: Windows, Linux, Solaris, FreeBSD, その他

アプリケーションサーバ

J2EE 準拠のアプリケーションサーバ (Servlet2.1, JSP1.0 準拠) :

Tomcat, WebSphere, WebLogic, その他

データベース

Cloudscape, DB2 UDB, Derby, Firebird, HSQLDB, MySQL, Oracle, PostgreSQL, SQLServer, Sybase

クライアント環境

対応ブラウザ

Microsoft Internet Explorer 5.01 以上

Firefox 1.0 以上

NetscapeNavigator 7.0 以上

- * 記載の内容は 2005 年 12 月現在のものです。
- * 記載の内容、仕様は、予告なく変更することがあります。
- * 記載された商品名、各製品名は各社の登録商標または商標です。

株式会社 I2C (アイ・トゥー・シー)

プロダクトチーム

〒530-0003 大阪府大阪市北区堂島 2-1-16 フジタ東洋紡ビル 5F

E-mail. product@i2c.jp TEL. 06-6343-6666 FAX. 06-6343-6665

URL. <http://www.i2c.jp/product/>